

(様式1・小学校用①)

令和3年度 学校評価報告

草加市立松原小学校

(令和4年2月1日作成)

1 学校教育目標 心身ともに健康で自ら学ぶ子 ～ やさしい心・強い心・健やかな心・自ら学ぶ子 ～	
2 重点目標・努力目標 <ul style="list-style-type: none">・幼保小中を一貫した教育・基礎的、基本的な学力の定着・個を生かす指導・道徳科教育の充実・健康、体力の向上・学級経営の充実・学校行事の充実・積極的生徒指導の推進	3 前年度の成果と課題 成果 ○研修を充実させ、アクティブラーニングの視点を持った授業づくりを全教員で推進できた。 ○ホームページの充実など、コロナ禍においても開かれた学校づくりができた。 課題 ●不登校児童に対して、対応を行っているが、さらに校内体制を整備し、よりきめ細やかに対応を図る。 ●幼保小中一貫教育において交流自体が難しい状態。特に幼保との連携を図りたい。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○各主任が目指す学校像を意識し、現況に適した提案を積極的に実行できた。 ●各教科主任が行事のみならず、指導、評価、計画の松原スタイルを確立させる。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	B	○指導者を招き、国語科、算数科を中心とした授業研究会を実施し、アクティブラーニング視点にもとづく指導法を推進できた。 ●若手教員の指導力向上を図る。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○感染対策が保護者にも浸透し、健康状態の把握、連絡がきめ細かに行われ、感染者の増大は見られなかった。 ●歯科治療率の向上が見られたが、100%には至っていない。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	B	○教職員の意識が向上し諸表簿の管理、金銭の保管の徹底など事故0を継続できている。 ●児童の資料など持ち帰り時の約束事に行き違いが見られたので、徹底を図る。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	A	○学校運営協議員、地域のボランティア活動の方々も含め、学校の情報を共有することができた。 ●PTA会長と連携を図り、次年度の新しい活動を計画していく。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○各部会を通じ、校内での学習活動、健康安全、家庭との連携を周知、指導を行った。 ●感染防止を踏まえ、幼保との連携が停滞している。今後、ICTも踏まえ、活動の推進を図る。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 1.5年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○授業時数や履修内容を逐次確認し、計画どおり実施することができた。 ●プログラミング教育を踏まえた、指導計画について研修を行っていく。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○研修を行い、各教科においてICTを活用した授業形態を推進することができた。 ●ICTと読む書くを重視した授業の両面の特徴を生かした理解を深める授業を研修していく。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○研修をとおり授業のスタイルを構築し、松原小としての評価内容を深めることができた。 ●松原小の地域性を活かし、必要な道徳的価値を深められる実践力を育成していく。
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ALTと綿密な計画を立て、内容理解の定着や表現力を向上できる指導方法を実行することができた。 ●外国語活動をさらに充実させる。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○活動が制限された中で、委員会活動を中心に児童の活躍の場を確保し、責任感を実感できる活動を行うことができた。 ●異学年交流を踏まえた活動を工夫する。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ICTを活用し、充実した調べ学習を行い、表現方法も工夫するようになってきた。 ●安易にネットを利用した調べ学習だけでなく、地域と関連した調べ学習を重質させていく。
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導部会により校内の情報を常に共有し、教職員全員の教育力を活かし、指導にあたり、様々なトラブルに対処することができた。 ●教科と関連させ積極的な生徒指導を推進する。
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○出前授業を実施し、学校以外の社会的な学習を充実させ、社会に参画していく心構えを育成することができた。 ●低学年の段階から地域と連携し、地域と共存する学習を図る。
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○各学級においても個別の指導計画を作成し、よりきめ細やかな指導を充実させるため、指導方法の工夫を図った。 ●コロナ禍のため、特別支援学校との連携を深めることができなかった。
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○読書紹介カードの作成など児童の意欲を向上させる計画を立て、読書量の確保ができた。 ●図書室利用の確保を今後も進めていく。
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員がお互いに講師となり、校内研修を実施し、授業に役立つICTの活用方法を推進することができた。 ●情報モラルの学習を充実させ、児童のトラブルを軽減させる。
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○人権週間を活用し、全学級で人権感覚育成プログラムを活用した指導を実施できた。 ●人権感覚の育成に伴い、実践を目指した指導方法を確立していく。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色 ある 学校 づくり	松原小学校の校風の確立	・歌声の響く学校 ・いつでも、どこでも元気よくあいさつ ・俳句	B	○児童会役員が年間を通して、あいさつ運動を実施し、定着している。 ●感染防止の観点から歌声を響かせることが難しい。
	保護者、地域に信頼される学校	・地域交流の充実 ・教育活動の情報発信	A	○ホームページに給食のコメント、ことばきこえの教室、PTA活動の広報など内容を充実させ、閲覧数が向上した。 ●次年度も地域との交流方法を検討していく。
	学力・体力の向上	・学力・学習状況調査を踏まえた指導の充実 ・感染対策を踏まえ、対策を講じながら体力向上を図る	B	○意見の交流、表現方法の充実、振り返りの記述などの学習を充実させ、学力を向上させることができた。 ●体育的活動を実施しているが、さらに体力向上を目指した活動を推進する。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

- ・きめ細やかな指導の充実を図り、一人一人の自己肯定感を高める授業の確立に努め、自分の考えを持てる、表現できる児童の育成を図ることができ、保護者の理解を得ることができた。保護者アンケートによる結果、満足度99%であった。
- ・思考力、判断力の向上を目指し、「草加っ子の学びを深める授業の5か条」を基に校内研修を充実させ児童の学力向上を推進した。その結果、各学習調査において各学年で向上が見られた。
- ・学校運営協議会において、児童の落ち着いた学習態度に学校経営の理解を得た。感染が落ち着いた後、協力を得ることを協議できた。
- ・感染対策について情報を発信し、保護者の理解が高まり、陽性者数が抑えられた。

6 次年度の改善策

- ・ICT学習をさらに充実させ、各教科において児童の理解を深め、知識を広める学習過程や指導方法の工夫を研修していく。
- ・道徳科や特別活動、人権教育など横断的な教育活動を計画し、積極的な生徒指導を充実させ、いじめ認知度の皆無を目指す。
- ・栄中学校区の幼保小中を一貫した教育を推進し、幼保との連携、中学校とのキャリア教育の充実、学園都市としての地域との連携も深めていく。